

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	商業簿記1（Commercial Bookkeeping 1） 392085-14600					担当教員	中村 大輔 （ナカムラ ダイスケ）		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単 位 数	2	配当年次	2年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型 AL／資格対応科目								

① 授業のねらい・概要	商業簿記1・2では、1年次配当の簿記入門の知識を前提とし、商品売買業およびサービス業における高度な簿記を学ぶ。特に商業簿記1では日常の取引に関する仕訳を中心に学ぶ。本講義は事務・経理職のスペシャリストを目指すために必須の知識であり、日商簿記検定2級に対応する科目である。
② ディプロマ・ポリシーとの関連	職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力を養う。
③ 授業の進め方・指示事項	スライド資料、レジュメ等はGoogle Classroomを通じて配布する。
④ 関連科目・履修しておくべき科目	「商業簿記2」「工業簿記1」「工業簿記2」と共に履修することを強く推奨する。
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安	(i) 日常の取引について本質的に理解し、検定試験レベルの問題を解くことができる。 (ii) 個別精算表や個別財務諸表を作成することができる（検定試験レベルの問題を解くことができる） (iii)
⑥ テキスト（教科書）	滝澤ななみ(2022)『簿記の教科書 日商2級 商業簿記（第11版）』TAC出版 滝澤ななみ(2022)『簿記の問題集 日商2級 商業簿記（第11版）』TAC出版 (2022/1/20 現在では「出版予定」である)
⑦ 参考図書・指定図書	各年度に対応した予想問題集等。必要に応じて紹介する。

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S 到達目標を越えたレベルを達成している	A 到達目標を達成している	B 到達目標達成にはやや努力を要する	C 到達目標達成には努力を要する	D 到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 日常の取引に関する本質的理解	難易度の高い検定試験レベルの仕訳問題を解くことができる	標準的な検定試験レベルの仕訳問題を合格レベルで解くことができる	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる	基本的レベルの仕訳問題について教科書を見ながらであれば正答できる	基本的レベルの仕訳問題について教科書を見ながらでも正答できない。
(ii) 精算表や財務諸表の作成	難易度の高い検定試験レベルの問題を解くことができる	標準的な検定試験レベルの問題を合格レベルで解くことができる	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる	基本的レベルの問題について教科書を見ながらであれば、精算表や財務諸表が完成できる	基本的な精算表や財務諸表の問題について、教科書を見ても完成させることができない。
(iii)					

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	80%	20%						100%
(i) 日常の取引に関する本質的理解	40%	10%						50%
(ii) 精算表や財務諸表の作成	40%	10%						50%
(iii)								
フィードバックの方法	小テストは採点して返却・解説する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）	
多くの仕訳問題に触れることができるようにし、単なるパターン暗記ではなく本質的な理解が進むようにしたい。	

⑪ 授業計画と学習課題		
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）

1	ガイダンス・株式の発行	教科書を読み全体像を理解する。	90分
2	剰余金の配当と処分	教科書の予習と問題集の演習、特に利益準備金の積立てについて注意（授業には電卓持参）	90分
3	株主資本の計数変動・税金	教科書の予習と問題集の演習、特に課税所得計算の理解に努める（授業には電卓持参）	90分
4	商品売買	教科書の予習と問題集の演習、棚卸減耗損や商品評価損の計算と精算表の記入について理解を深める（授業には電卓持参）	90分
5	電子記録債権債務・銀行勘定調整表	教科書の予習と問題集の演習、銀行勘定調整表では不一致の原因と処理についての理解を深める（授業には電卓持参）	90分
6	固定資産	教科書の予習と問題集の演習、固定資産の購入から減価償却、売却（買い換え、除却、廃棄）まで一連の流れとしてつかめるようにしておく（授業には電卓持参）	90分
7	リース取引・研究開発費・無形固定資産	教科書の予習と問題集の演習、特にファイナンス・リース取引について、リース開始時から決算時までの一連の流れを理解しておく（授業には電卓持参）	90分
8	有価証券	教科書の予習と問題集の演習、各種の有価証券について、購入から決算そして売却までの一連の流れを理解する（授業には電卓持参）	90分
9	引当金	教科書の予習と問題集の演習、各種引当金の種類と処理を理解しておく（授業には電卓持参）	90分
10	収益・費用	教科書の予習と問題集の演習、特に「収益認識に関する会計基準」の適用によって影響を受ける箇所の理解を深める（授業には電卓持参）	90分
11	外貨建取引	教科書の予習と問題集の演習、特に取引発生時と決裁時の為替相場の変動による為替差損益について理解しておく（授業には電卓持参）	90分
12	伝票と仕訳日計表	教科書の予習と問題集の演習、3級範囲の復習にもなるので確実に理解しておくこと（授業には電卓持参）	90分
13	精算表と財務諸表	教科書の予習と基本問題・問題集の演習、授業中には大問を解く時間がないので、必ず時間を取って演習問題に取り組むこと（授業には電卓持参）	90分

14	問題演習	前期に学修した日常の取引について本質的な理解を深め、例題レベルの問題を解けるようにしておくこと。(授業には電卓持参)	90分
15	まとめ	前期に学習した日常の取引について、問題集レベルの問題が解けるように演習に取り組む(授業には電卓持参)	90分

⑫ アクティブラーニングについて	
知識定着・確認型ALを採用する。適宜小テストや課題等を行い、その解説を行うことで知識の定着を図る。	

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	
実務経験と授業科目との関連性	